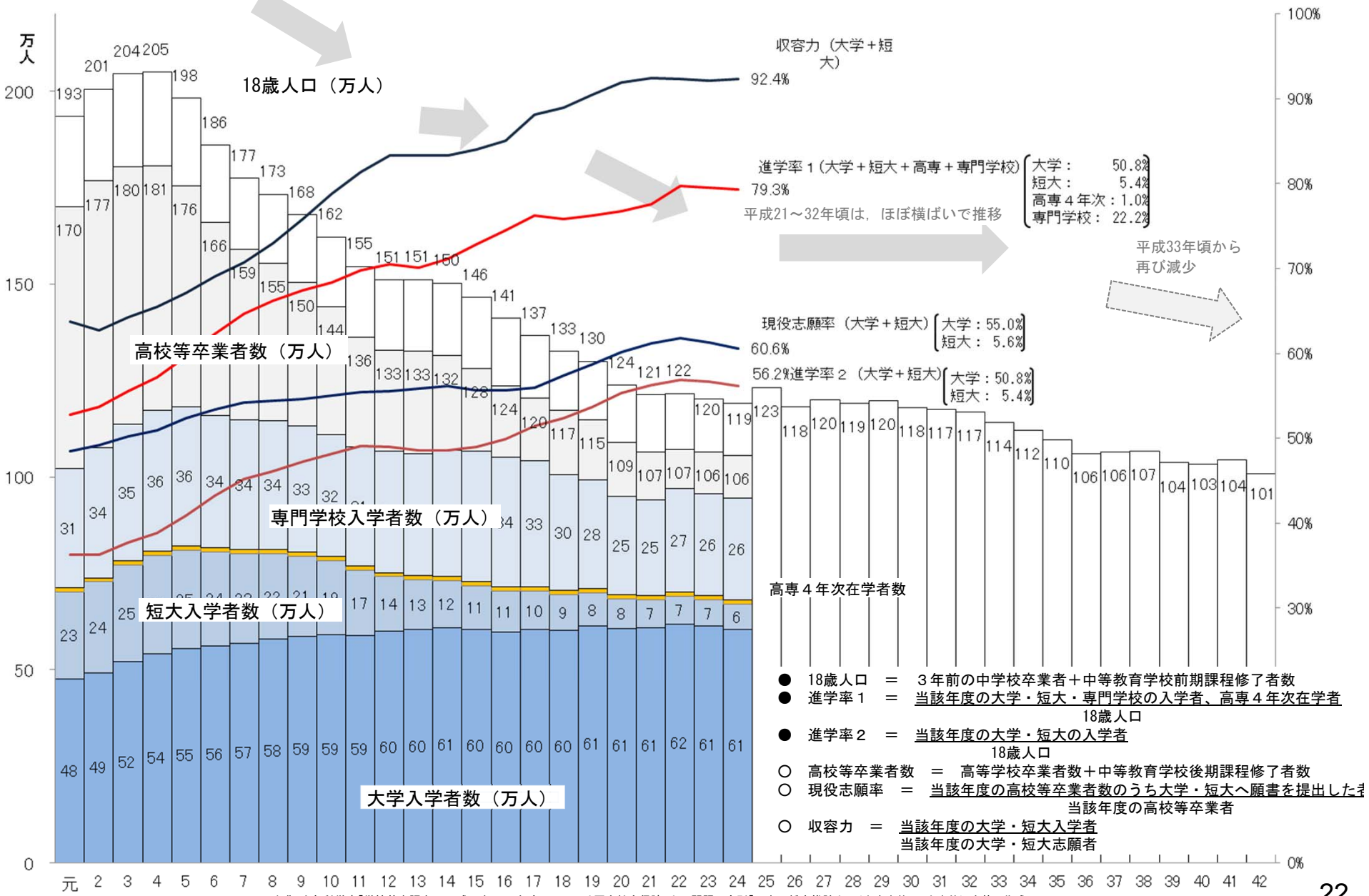
１８歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（平成元年度以降）

18歳人口は平成21年～32年頃まで横ばいで推移。その後、再び減少

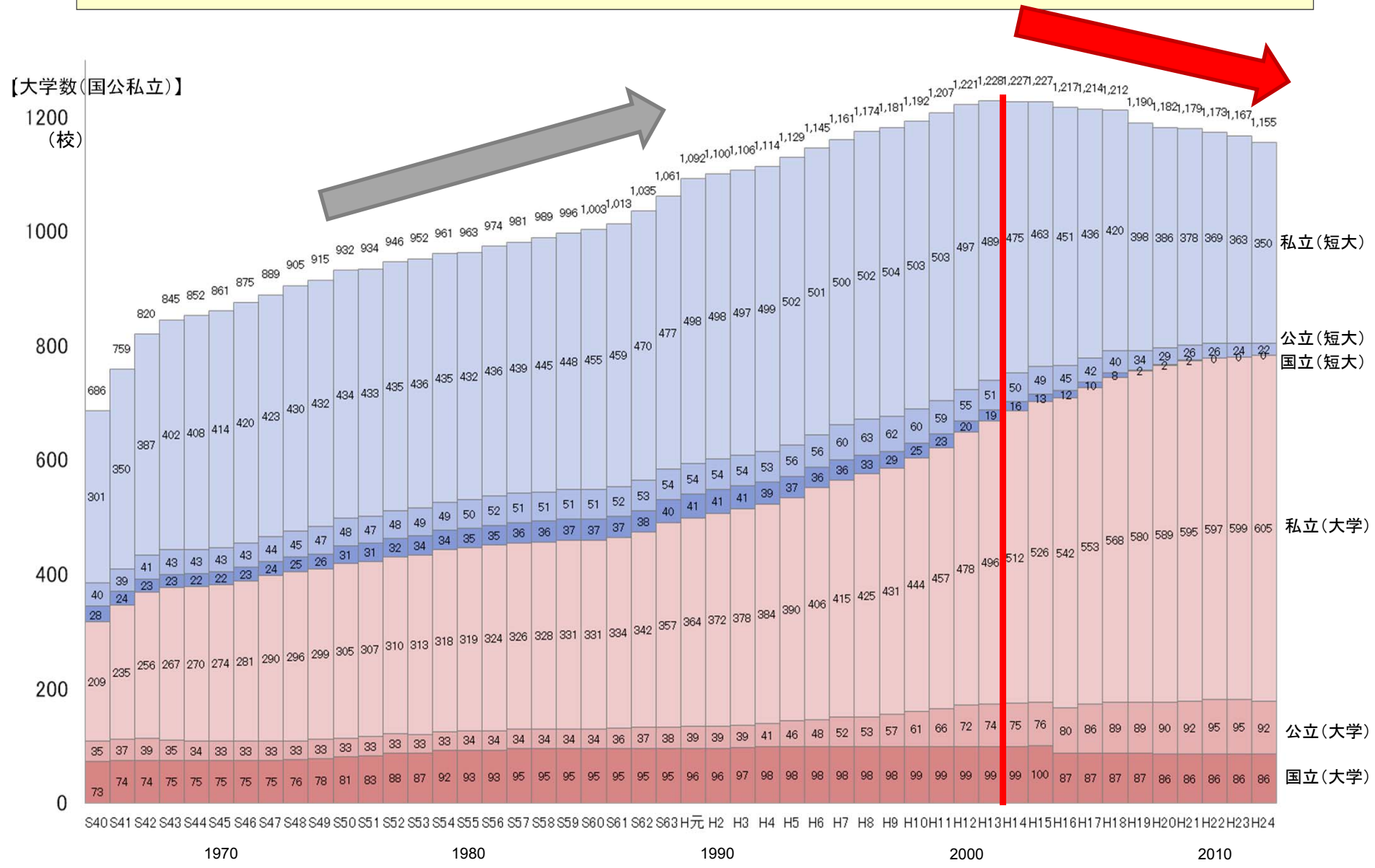


- ● 18歳人口 ＝ ３年前の中学校卒業者＋中等教育学校前期課程修了者数
- ● 進学率１ ＝ 当該年度の大学・短大・専門学校の入学者、高専４年次在学者 ／ 18歳人口
- ● 進学率２ ＝ 当該年度の大学・短大の入学者 ／ 18歳人口
- ○ 高校等卒業者数 ＝ 高等学校卒業者数＋中等教育学校後期課程修了者数
- ○ 現役志願率 ＝ 当該年度の高校等卒業者数のうち大学・短大へ願書を提出した者 ／ 当該年度の高校等卒業者
- ○ 収容力 ＝ 当該年度の大学・短大入学者 ／ 当該年度の大学・短大志願者

出典：文部科学省「学校基本調査」、平成37年～42年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（出生中位・死亡中位）」を基に作成

10年以上前から大学・短大数は減少している

短期大学数は四大化や廃止により減少。平成13年以降は四大・短大の合計数も減少。

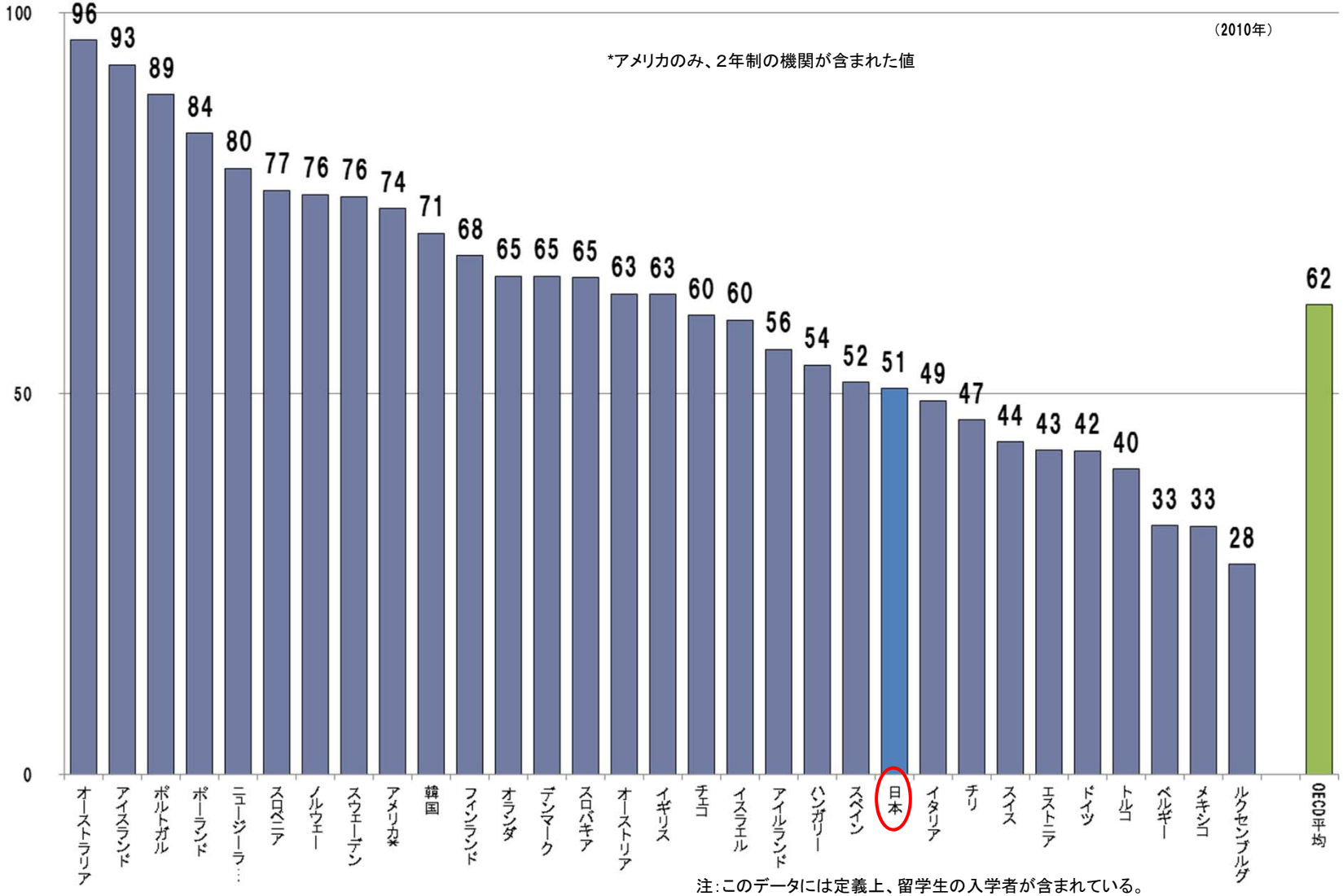


※学生募集停止の学校も含む。
※通信教育課程のみ置く学校は含まない。

（出典）文部科学省「学校基本調査」

大学進学率の国際比較

日本の大学進学率はOECD各国平均に比べると高いとは言えない。



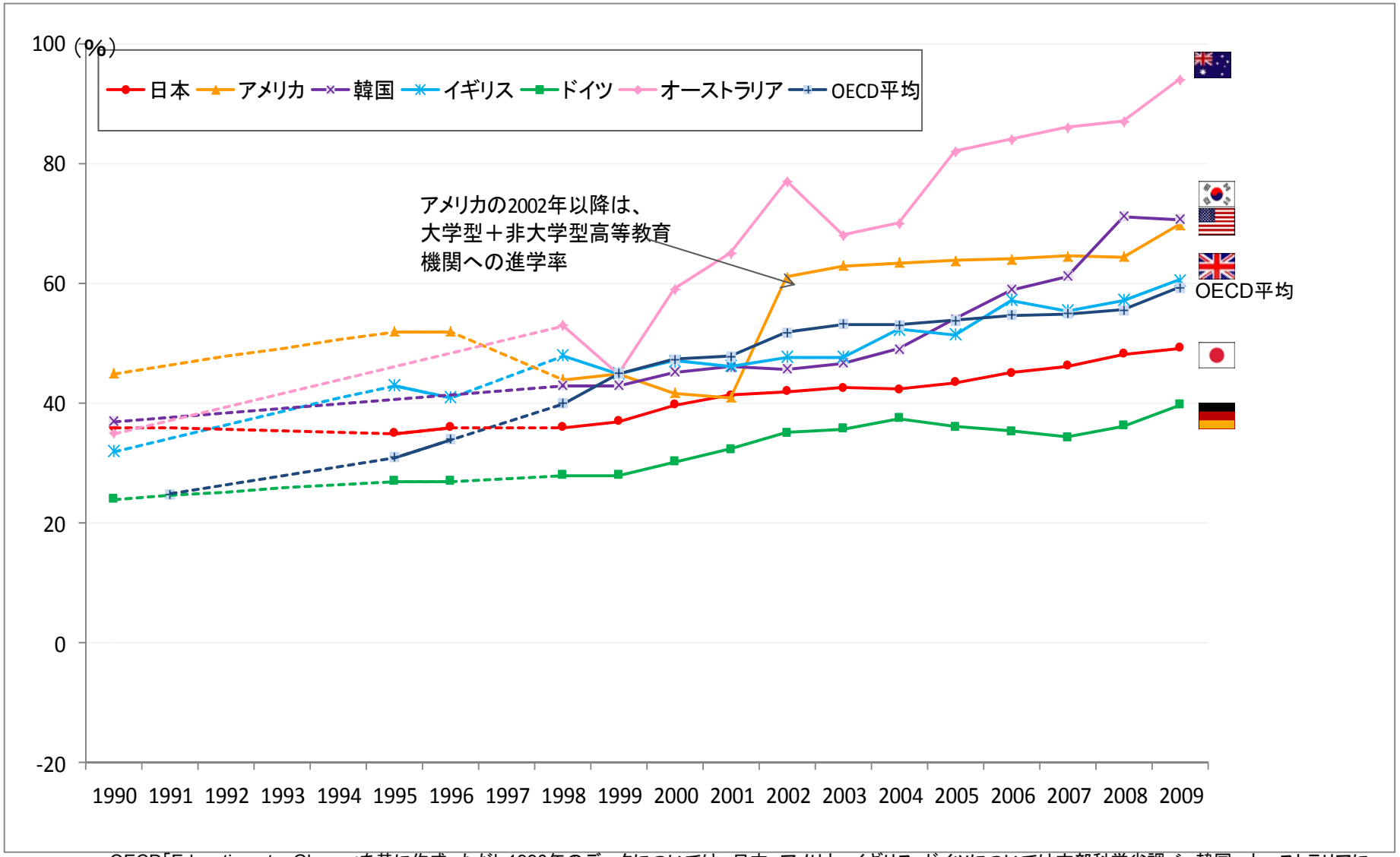
注：このデータには定義上、留学生の入学者が含まれている。

※OECDは、留学生が進学率に及ぼす影響を明らかにするため、データのある国については、留学生を除外した調整後の値を示している。
日本は留学生の在籍者数は把握しているが、入学者を区分して調査していないため、留学生を除くことができない。

出典：OECD「Education at a Glance 2012」

世界の高等教育機関の大学進学率の推移

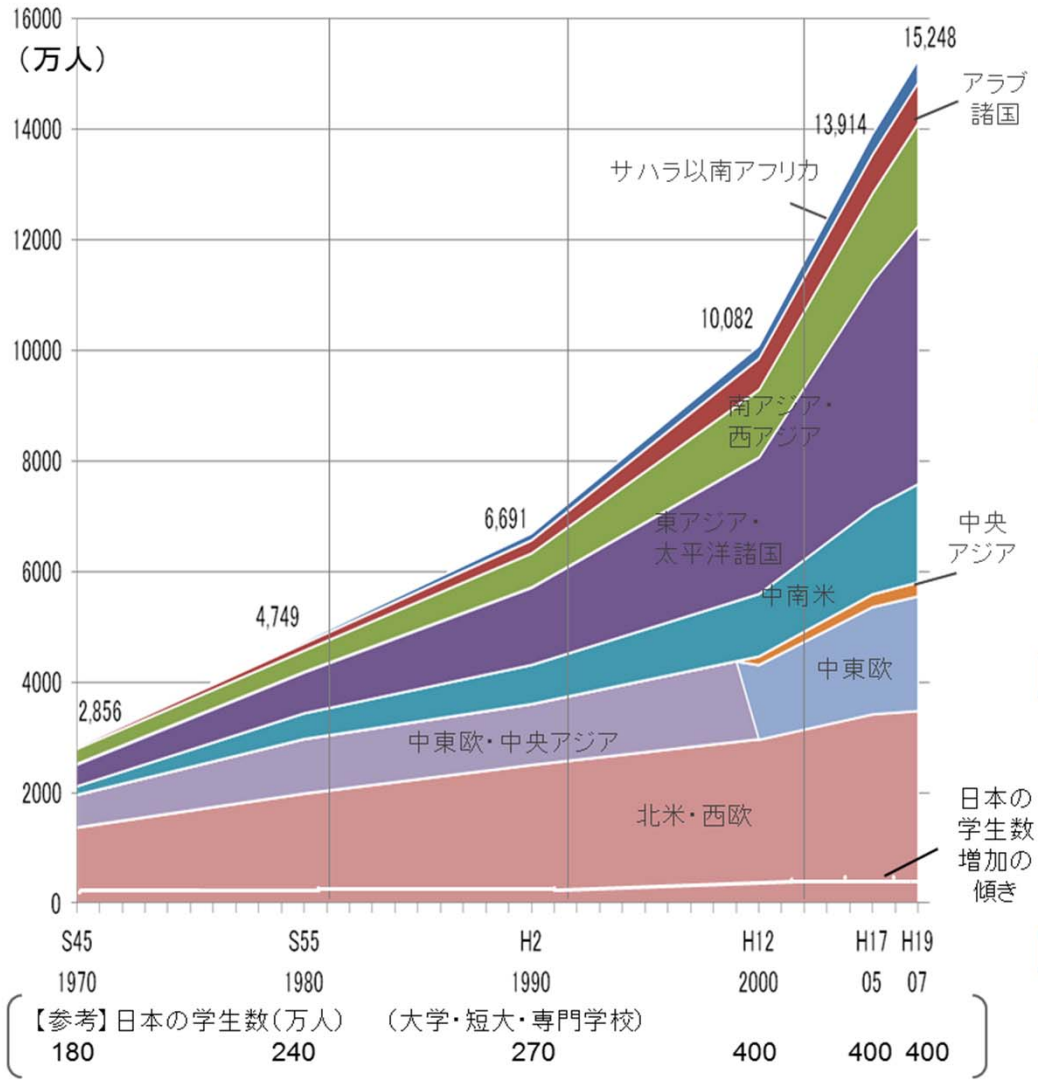
先進諸国の多くが、大学進学率を上昇させる中で、日本の伸びは低位



OECD「Education at a Glance」を基に作成。ただし1990年のデータについては、日本、アメリカ、イギリス、ドイツについては文部科学省調べ。韓国、オーストラリアについては、UNESCO「 Global Education Digest 」

諸外国の成長戦略における高等教育の役割

世界の高等教育機関の学生数は、この10年で2倍近くの増加



UNESCO「Global Education Digest 2009」を基に作成

先進国や近年経済成長を遂げている国は、高等教育政策を重視

米国

○オバマ政権は「2020年までに大学卒業者比率を世界一に」と宣言しており、コミュニティ・カレッジ卒業者を500万人増加する計画を開始

欧州

○2020年までの欧州の経済成長と雇用に関する包括的な計画「欧州2020」において、高等教育修了者の増加に向け、高等教育に社会の様々な層を惹き付ける、中退者数を減少させることを掲げる。

中国

教育事業の第12次5カ年計画(2011～2015年)
○5年間で、高等教育在学者数の増を目指す（2,922万人→3,080万人）。大学院在学者数についても増（154万人→170万人）。
○地方の高等教育の発展も重視。

韓国

○1990年から2000年にかけて、大学生は約1．7倍（128万人→222万人）、進学率は70%を超えた。
○一方、少子化が日本を上回るスピードで進んでおり、このままいけば、10年後には、大学入学定員が18歳人口の140%になる見込み。

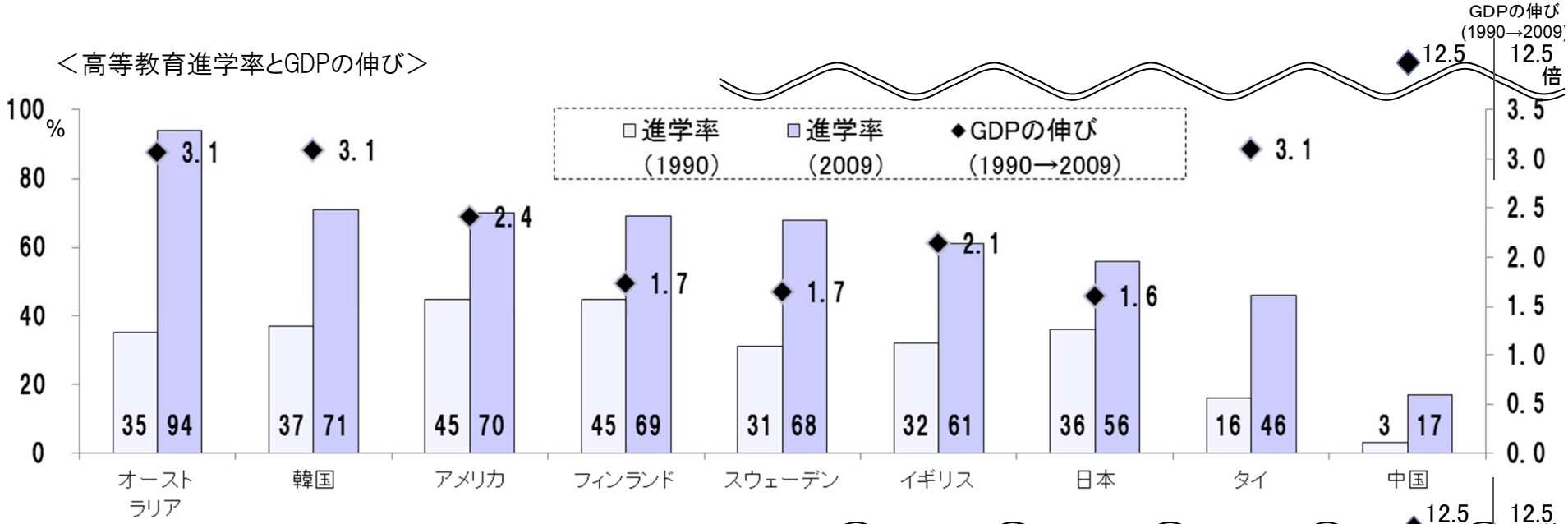
ASEAN

○マレーシア：第10次マレーシア計画(2011-2015)等で、高付加価値の知的産業の育成と世界トップレベル大学の育成等を掲げる。
○タイ：第10次経済社会開発計画等で、人口一万人あたりのR&D人口を10人に増加や、大学の基盤整備等を掲げる

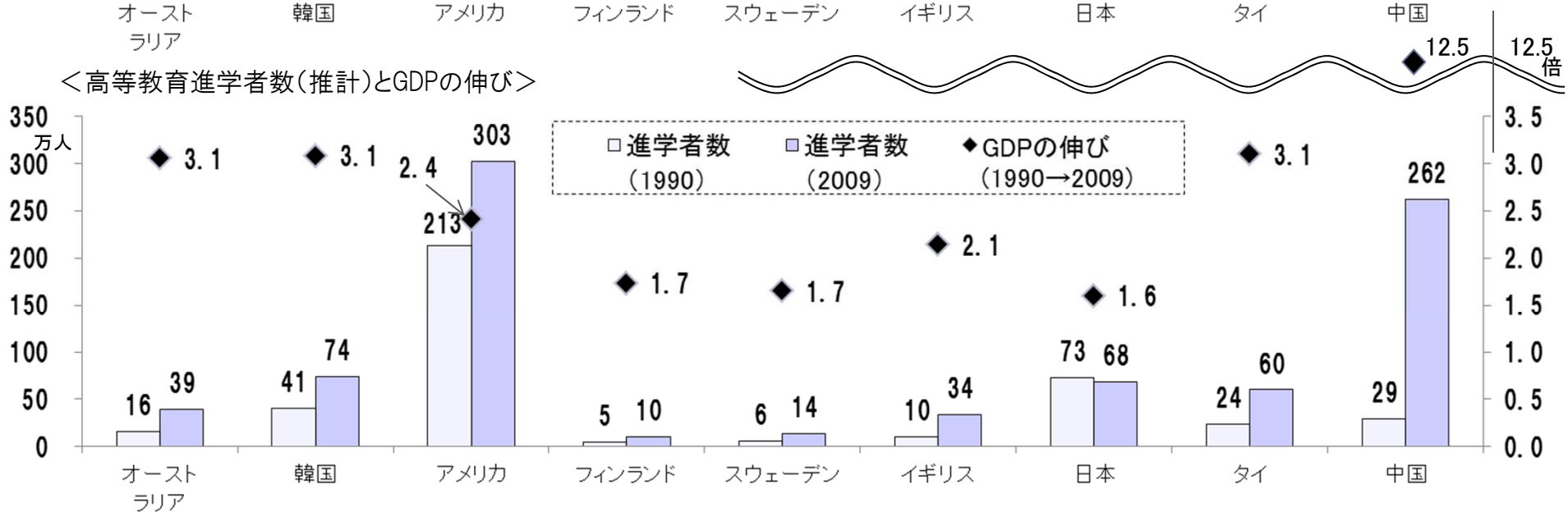
高等教育進学率・進学者数とGDPの伸び

日本の進学率は国際的にみて低水準。日本だけが大学入学者が減少。

＜高等教育進学率とGDPの伸び＞



＜高等教育進学者数（推計）とGDPの伸び＞



日本は進学率、進学者数ともに文部科学省調べ（短大含む）。【1990の進学率】アメリカ（2年制を含む）、イギリスは文部科学省「教育指標の国際比較」、それ以外の国はUNESCO,“Statistics (Historical data)（全高等教育機関）”を基に作成。【2009の進学率】OECD「図表でみる教育2011」ただし、タイについては、UNESCO,“Statistics（全高等教育機関）【学生数】アメリカ、イギリス、中国は文部科学省「教育指標の国際比較」の在学者数から推計。フィンランド、スウェーデン、タイはUNESCO,“Statistics (Historical data)”の在学者数から推計（全高等教育機関）。韓国は1990年をUNESCO,“Statistics (Historical data)”、2009年は文部科学省「教育指標の国際比較」の在学者数からそれぞれ推計（全高等教育機関）、オーストラリアの1990年はUNESCO,“Statistics (Historical data)”の在学者数から推計（全高等教育機関）、2009年はOECD,”Statics”による入学者数。